

平成 25 年度 事 業 報 告 書
平成 25 年度 計 算 書 類 等

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

概 況	1
-----	---

事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	5
III 各種研究会	7
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	15
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会における講演	
4 共同研究	
B 研修事業	25
I 実技研修の受入れ	
II 平成消化器懇話会の開催	
III 外国人医師に対する研修	
C クリニック運営事業	30
D 啓発事業	44
E 法人運営	45

計算書類等

A 平成 25 年度 計算書類等	47
------------------	----

概 況

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により、我が国は厳しい経済状況が続いていたが、政府が実施する大胆な金融政策や民間投資を喚起する成長戦略等の経済政策により、日本経済に回復の兆しが見られつつある。

しかしながら、検診業界に目を向ければ、検診仲介事業者の参入や医療機関の多角的経営等により、コストダウンとクオリティの向上という両極にあるニーズに応えなければ生き残れないという大変厳しい環境に直面している。平成 25 年度は、取引先企業の統廃合等の影響を受け、巡回検診等の施設外における検診の件数が大幅に減少し、協会の経営にとって大きな打撃となった。平成 26 年度は、これまで検討を重ねてきた「総合リスク検診」を確立し、実践するための準備期間として位置づけ、「総合リスク検診」を中核とした検診体制を構築するとともに、協会の安定的な運営を確保していかなければならない。

当協会が平成 25 年度に実施した事業については、以下のとおりである。

研究事業については、計画どおりに進捗しており、一定の成果を上げることができた。引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業については、JICA からの委嘱事業である上級早期胃癌診断研修を実施し、海外から 6 名の研修員の参画があり、非常に有意義な研修となった。この研修は、参加者の母国医学界から非常に好評であったが、JICA 等の方針により、平成 25 年度限りで廃止となる。国内医師研修については 3 名を受け入れ、内視鏡研修を行った。また、地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会を開催した。

クリニック運営事業については、検診（人間ドック等）のうち施設内検診は前年度並みの規模を維持できたが、施設外検診の規模は半減となり、全体としては大幅な規模縮小となった。一方、外来診療の患者数はわずかに増加した。

啓発事業については、保健指導者セミナーを開催し、多くの方々の参加を得た。また、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを四半期に 1 回の割合で発行した。

今後とも、当協会は基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。

平成 25 年度 事業報告書

A 研究事業

当協会では検診・診療を通じて、早期胃がんを主とし、大腸や食道の早期がんをも含めた消化器系のがんの学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 25 年度の研究テーマは、平成 24 年からの継続のものが 3 テーマ、新規のものが 2 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行い、総合判定が A（優れている）又は B（普通）と評価された。

<研究テーマ>

1) より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続）

（研究本部検診システム研究室）

日本人の疾病構造の変化に合わせた新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討する。平成 25 年度は、論文などで報告された資料を参考にして、飲酒（毎日）・喫煙（喫煙指数 600 以上）・ピロリ感染あり・血清ペプシノゲン陽性並びにヘリコバクター・ピロリ除菌後を高リスク群として検査方法に差をつけた胃食道がんリスク検診を考案した。この胃食道がんリスク検診に、ガイドラインに基づいた大腸がん、肺がん検診を加えた早期胃癌検診協会独自の「がん総合リスク検診」を提案した。

2) より効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（新規）

（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診において、メタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm²で、101 mm²以上のものが 28%であった。内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。

3) 腸上皮化生の進行に伴う早期胃がんの臨床病理所見と内視鏡像の変化（新規）

（研究本部臨床病理研究室）

平成 25 年度は「腸上皮化生が乏しい胃腺管腺がんにおける、粘液形質と粘膜下層浸潤の関連」について検討した。検討対象症例は 280 例であり、その中で腸上皮化生の乏しい粘膜中に発生した症例について、がんの深達度と粘液形質の関係の解析を行った。胃型の粘液形質をもつ病変は早期に浸潤する傾向のあ

ることが判明した。研究結果は第 10 回国際胃癌学会（平成 25 年 6 月 イタリア）で口演発表した。また、英文論文を作成中である。

4) DR-X 線装置を使用した食道連続撮影の検討（継続）

（研究本部画像研究室）

デジタル X 線装置を使用した食道造影検査の精度向上のために、その特徴を生かした連続撮影法と撮影視野サイズを検討する。平成 25 年度は、1 枚/1 秒の連続撮影について検討した結果、1 枚/1 秒の 4 秒間連続撮影は透視画像で撮影タイミングを確認して撮影する単発撮影に比べて上部～下部食道領域で良好な二重造影像が得られた。

5) 検診胃 X 線検査における造影剤少量化の検討（継続）

（研究本部画像研究室）

日本消化器がん検診学会新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版（2011 年）によれば、検診胃 X 線検査で使用する造影剤は、濃度 180～220w/v% の高濃度低粘性粉末バリウム 120～150ml を使用するとあるが、使用量の上限と下限には 30ml の幅がある。平成 24 年度はバリウム量 120ml と 150ml について検討して 150ml を、平成 25 年度はバリウム量 130ml と 140ml について検討して 140ml を使用したほうが横胃、鉤状胃、下垂胃のいずれも良好な画像が得られた。

II 個別研究事業

個別研究事業は、前年度から継続して研究するものが 1 テーマ、平成 25 年度から新たに研究を開始したものが 2 テーマ、合計で 3 テーマであり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行い、総合判定が A（優れている）又は B（普通）と評価された。

<研究テーマ>

1) 内視鏡的正常胃粘膜症例の病態に関する内視鏡的研究（継続）

（榊 信廣）

胃がんリスク検診（ABC 検診）の実施にあたっての問題点を検証する目的で、平成 25 年度は次の検討を行った。①平成 24 年 11 月～平成 25 年 10 月までの内視鏡検査では男性 40.5%が、女性の 50.6%が内視鏡的 A 群（正常胃例）であり、同例からの胃がんの発生は認めなかったが、食道がんを経験した者が 1 例あった。②平成 25 年 1 月～10 月に内視鏡的 A 群 211 例のうち腺がんの発生母地として注目されているバレット粘膜（食道粘膜の円柱上皮化生）と診断されたのは 60 例（28.6%）であった。また、後ろ向きに 2 年以上経過を観察したバレット粘膜あり群 33 症例中 9 例（27.3%）に口側の進展を認めたのに対して、バレット粘膜なし 38 例では全例変化がなかった。

2) ラベプラゾールを用いた除菌治療の有用性の検討（新規）

（尾割道代）

強力な酸分泌抑制作用を持つラベプラゾールを用いた、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を検討する。平成 25 年度は登録制の前向き研究を開始した。平成 25 年 1 月から 10 月までに除菌治療・判定がなされた症例は、一次除菌 29 例、二次除菌 9 例、三次除菌 1 例で、除菌率は 82.8%、100%、100%、副作用発生率は 10.3%、11.1%、0%であった。

3) ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の内視鏡診断に関する研究（新規）

（榊 信廣）

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が除菌治療の保険適応になり、今後は内視鏡診断時に、胃粘膜の炎症の有無を推定することが必要になると考えた。そこで、検討①として、現状の内視鏡診断において胃の炎症がどの程度推定可能かを検討した。当協会の医師 6 名に 20 症例の内視鏡画像を示して診断してもらった結果、「炎症」の正診率は 60%にすぎなかった。

次に、粘膜肥厚と点状発赤を炎症の指標とする新しい胃炎診断基準を考案した。その診断精度を検討するために、検討②として、内視鏡検査時に事前情報なしに炎症の有無を評価した。その結果、個人的検討ではあったが、ピロリ陽性活動性胃炎の診断感度は 97%、特異度は 94%であった（*Helicobacter Research* 17:198-206, 2013）。以上の結果から、新しく提案した胃炎診断基準は有用と考えられる。

Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 54 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回平均 5 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端のすこぶる厳しい討論が行われた。この研究会を通じて、最新の診断技術と理論の応用と普及が図られており、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

平成 25 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 51 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事 10 名が運営委員長を補佐し研究会運営を推進している。

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

【運営委員長】 1 名

齊 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター

【運営幹事】 10 名

赤 松 泰 次 長野県立須坂病院 内視鏡センター

小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科

九 嶋 亮 治 国立がん研究センター中央病院 病理科

清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科

田 中 信 治 広島大学 内視鏡診療科

長 浜 隆 司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

二 村 聡 福岡大学医学部 病理学講座

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化管分野

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学

山 野 泰 穂 秋田赤十字病院 消化器病センター

【名誉幹事】 3名

飯田 三雄 公立学校共済組合九州中央病院
多田 正大 多田消化器クリニック
八尾 恒良 佐田病院 名誉院長

【顧問】 2名

下田 忠和 国立がん研究センター中央病院
渡辺 英伸 新潟大学医学部 名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆掲載される。

(平成26年3月31日現在)

【編集委員長】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター内視鏡診療部門

【編集委員】 29名

赤松 泰次 長野県立須坂病院 内視鏡センター
味岡 洋一 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 分子・診断病理学
飯石 浩康 大阪府立成人病センター 消化管内科
井上 晴洋 昭和大学横浜市北部病院 消化器センター
江頭 由太郎 大阪医科大学 病理学
大倉 康男 杏林大学医学部 病理学教室
小澤 俊文 佐藤病院 消化器内科
小野 裕之 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科
小山 恒男 佐久医療センター 内視鏡内科
海崎 泰治 福井県立病院 臨床病理科
鬼島 宏 弘前大学大学院医学研究科 病理生命科学講座
九嶋 亮治 国立がん研究センター中央病院 病理科
蔵原 晃一 松山赤十字病院 胃腸センター
小林 広幸 福岡山王病院 消化器内科
斉藤 裕輔 市立旭川病院 消化器病センター
清水 誠治 大阪鉄道病院 消化器内科
菅井 有 岩手医科大学医学部 分子診断病理学分野
高木 靖寛 福岡大学筑紫病院 消化器内科
田中 信治 広島大学 内視鏡診療科
長南 明道 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター

長	浜	隆	司	早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック
二	村		聡	福岡大学医学部 病理学講座
細	川		治	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
松	田	圭	二	帝京大学附属病院 外科
松	本	主	之	岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化管分野
門	馬	久	美子	がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科
八	尾	建	史	福岡大学筑紫病院 内視鏡部
八	尾	隆	史	順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学
山	野	泰	穂	秋田赤十字病院 消化器病センター

(五十音順)

早期胃癌研究会実施明細（平成25年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成25年4月17日 出席人数/740名 東京商工会議所4階 東商ホール	東京女子医科大学 消化器病センター 中村 真一 久留米大学医学部 消化器病センター内視鏡診療部門 鶴田 修 国立がん研究センター中央病院 病理科 九嶋 亮治	1) 社会医療法人財団白十字会 白十字病院 消化器内科 2) 川崎医科大学 消化管内科学 3) 東京都がん検診センター 消化器内科 4) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 5) 倉敷中央病院 消化器内科 ショートレクチャー 新潟県立吉田病院 内科	渋上 忠史 松本 啓志 富野 泰弘 今村健太郎 小原 佳子 八木 一芳	転移性大腸癌の一例 回腸末端に肉芽腫形成を認めた盲腸MALTリンパ腫 0-I型胃噴門部領域癌 小腸型の低異型度分化型癌が疑われた一例 消化管出血で発見された粘膜下腫瘍の形態を示した超高分化型腺癌の一例 テーマ：胃潰瘍性病変の診断と鑑別～NBI拡大内視鏡診断を含む～
平成25年5月9日 出席人数/429名 第52回「胃と腸」大会 国立京都国際会館 第12会場	大阪府立成人病センター 消化器内科 飯石 浩康 洛和会音羽病院 消化器病センター 趙 栄済 大阪医科大学 病理学 江頭由太郎	1) 大阪赤十字病院 消化器内科 2) 大阪市立十三市民病院 消化器内科 3) 大阪大学 消化器内科学 4) 社会医療法人誠光会 草津総合病院 消化器内科 5) 大阪市立大学大学院 消化器内科学 画像診断教育レクチャー 松山赤十字病院 胃腸センター	金坂 卓 上田 渡 加藤 元彦 小山 茂樹 永見 康明 蔵原 晃一	色素沈着を伴った肛門病変の一例 非結核性抗酸菌症に伴う腸管アミロイドーシスの一例 特異な肉眼所見と発育進展を示した食道扁平皮癌の一例 好酸性胃症の一例 診断に苦慮した特発性肉芽腫性胃炎の一例 テーマ：十二指腸・小腸隆起性病変の診断と鑑別(乳頭除外)
平成25年6月19日 出席人数/832名 笹川記念会館2階 国際会議場	藤枝市立総合病院 消化器内科 丸山 保彦 帝京大学附属病院 外科 松田 圭二 弘前大学 病理生命科学講座 鬼島 宏	1) 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 2) 佐賀大学 消化器内科 3) 聖隷浜松病院 消化器内科 4) 帝京大学附属病院 外科 5) 藤枝市立総合病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 東京都がん検診センター 消化器内科	佐藤 俊 中山 敦史 芳澤 社 山田 英樹 大島 昭彦 入口 陽介	Gastric cancer with lymphoid stromaの一例 H.pylori除菌後に多発性胃潰瘍を生じた一例 胃IFPの初期像と考えられた一例 直腸顆粒細胞腫の一例 上行結腸に穿破した虫垂腫瘍の一例 テーマ：大腸隆起性病変の診断と鑑別
平成26年7月19日 出席人数/1,395名 グランドプリンスホテル新高輪 国際パミール3階 崑崙	東京都がん検診センター 消化器内科 入口 陽介 松山赤十字病院 胃腸センター 蔵原 晃一 埼玉県済生会川口総合病院 病理診断科 伴 慎一	1) NTT東日本札幌病院 消化器内科 2) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 3) 長崎市立病院成人病センター 消化器内科 4) 原三信病院 消化器科 5) 久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門 画像診断教育レクチャー 大阪鉄道病院 消化器内科	吉井 新二 川田 登 松本 章子 府川 恭子 野田 哲裕 清水 誠治	NBI拡大で腺癌と鑑別困難であったfundic gland polyp with dysplasiaの一例 粘膜下腫瘍様の形態を呈したAFP産生胃癌の一例 急性腭炎で発生し幽門輪狭窄を呈した好酸球性胃腸炎の一例 重症貧血を来した小腸病変の一例 φ8mmの大腸SM massive癌の一例 テーマ：大腸潰瘍性病変の診断と鑑別
平成26年8月	休会			
平成25年9月18日 出席人数/736名 笹川記念会館2階 国際会議場	慶應義塾大学病院 予防医療センター 岩男 泰 大阪医科大学 第二内科 梅垣 英次 東邦大学医療センター大森病院 病理診断科 根本 哲生	1) 厚生連 長岡中央総合病院 消化器病センター内科 2) 慶應義塾大学医学部 腫瘍センター 3) 大阪医科大学 第二内科 4) 倉敷中央病院 消化器内科 5) 松山赤十字病院 胃腸センター	堂森 浩二 浦岡 俊夫 太田 和寛 角谷 彰 川崎 啓祐	特徴的な内視鏡像を呈し、臨床的にWhipple病と診断し得た一例 潰瘍性大腸炎合併0-IIc型早期印環細胞癌の一例 食道偽憩室症に合併した扁平上皮癌の一例 過形成ポリープに合併したsignet ring cell carcinomaの一例 胃癌壁内転移の一例

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成25年10月23日 出席人数/663名 笹川記念会館2階 国際会議場	がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科 門馬久美子 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化器分野 松本 主之 東京都健康長寿医療センター 病理診断科 新井 富生	1) 仙台市医療センター 仙台オープン病院 消化器内科 2) がん・感染症都立駒込病院 内視鏡科 3) 神戸市立医療センター西市民病院 消化器内科 4) 宇治徳洲会病院 内科 5) 広島大学 内視鏡診療科 画像診断教育レクチャー 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科	平内 哲也 渡海 義隆 三上 栄 関岡 敏夫 林 奈那 竹内 学	胃 Mixed adenoneuroendocrine carcinoma の一例 0-IIc食道小癌の一例 イレウスで発見された小腸多発悪性黒色腫の一例 LST偽陥凹型と紛らわしいCap polyposis 10mm大IIa+IIcの一例 テーマ：食道陥凹性病変の診断と鑑別
平成25年11月20日 出席人数/690名 笹川記念会館2階 国際会議場	佐藤病院 消化器内科 小澤 俊文 手稲溪仁会病院 消化器病センター 野村 昌史 岩手医科大学 医学部病理学講座 分子診断病理学分野 菅井 有	1) 産業医科大学 第三内科学 2) 公立学校共済組合中国中央病院 内科 3) 大阪医科大学 第二内科 4) 宇都宮記念病院 消化器内科 5) 大阪大学 消化器内科学 画像診断教育レクチャー 佐久総合病院 胃腸科	渡邊 龍之 妹尾 賢 太田 和寛 平嶋 勇人 加藤 元彦 小山 恒男	虫垂子宮内膜症による虫垂重積の一例 きわめて稀な肛門リンパ管腫の一例 内視鏡的粘膜下層剥離術で根治し得た胃原発髄外性形質細胞腫の一例 隆起型を呈した低分化型腺癌の一例 食道噴門腺由来と考えられた食道胃接合部癌の一例 テーマ：食道・胃接合部陥凹性病変の診断と鑑別
平成25年12月18日 出席人数/717名 笹川記念会館2階 国際会議場	新潟県立吉田病院 内科 八木 一芳 大阪鉄道病院 消化器内科 清水 誠治 福岡大学医学部 病理学講座 二村 聡	1) 佐藤病院 消化器内科 2) 九州大学病院 消化器内科 3) 秋田赤十字病院 消化器病センター 4) 三重大学医学部附属病院 光学医療診療部 5) 大阪鉄道病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 東京女子医科大学 消化器内視鏡科	小澤 俊文 池上 幸治 永塚 真 濱田 康彦 石田 哲士 中村 真一	早期胃癌の一例 非限局型胃アミロイドーシスの一例 Carcinoma with mixed lesionの一例 直腸隆起性病変の一例 憩室からみられる回腸に発生した多発潰瘍の一例 テーマ：胃隆起性病変の診断と鑑別-2
平成26年1月15日 出席人数/569名 東京商工会議所4階 東商ホール	市立旭川病院 消化器病センター 斉藤 裕輔 杏林大学医学部 病理学教室 大倉 康男	1) 洛和会音羽病院 消化器病センター 2) 秋田赤十字病院 消化器病センター 3) 東京都がん検診センター 消化器内科	宮本 和明 檜森 亮吾 富野 泰弘	ESDで完全切除しえた胃MALToomaの一例 横行結腸SM深部浸潤癌の一例 鼠径ヘルニア手術15年後に切除されたActinomyces polyp and tumor
平成26年2月19日	中止			
平成26年3月19日 出席人数/691名 笹川記念会館2階 国際会議場	福岡大学筑紫病院 消化器内科 高木 靖寛 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学 八尾 隆史	1) 松山赤十字病院 胃腸センター 2) 慶應義塾大学病院 予防医療センター 3) 朝日大学歯学部付属村上記念病院 消化器内科 4) 東京女子医科大学 消化器病センター 5) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 大阪医科大学 第二内科	川崎 啓祐 小林 拓 森本 泰隆 中村 真一 小野陽一郎 梅垣 英次	小腸Giant cell arteritisの一例 潰瘍性大腸炎合併粘膜内癌の一例 胃梅毒の一例 断崖状の陥凹を呈した未分化型IIc型早期胃癌の一例 食道学会分類B3血管を呈した深達度MM食道表在癌の一例 テーマ：胃びまん性疾患の診断と鑑別-2

2 大腸研究会（毎月第4月曜日開催）

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

この研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

平成25年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

（平成26年3月31日現在）

【代表世話人】 1名

鶴田 修 久留米大学 医学部消化器病センター内視鏡診療部門

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 分子・診断病理学
池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院 病理部
大倉 康男 杏林大学医学部 病理学教室
斎藤 彰一 東京慈恵会医科大学 内視鏡科
高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院 内科
津田 純郎 岡山市医師会総合メディカルセンター附属診療所
富樫 一智 福島県立医科大学会津医療センター 小腸・大腸・肛門科
長浜 隆司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック
西俣 嘉人 南風病院 政記念消化器病研究所
渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科 臓器病態外科学講座
腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 マリア病院 消化器内科
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

（五十音順）

大腸研究会実施明細（平成25年度）

開催年月日	症例提示施設	発表医師	出席人数
4 月度 平成 25 年 4 月 22 日	1) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸大腸肛門科 2) 村上記念病院 消化器内科 3) 協立総合病院 内科 4) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡科	根本 大樹 森本 泰隆 名和 晋輔 猪俣 寛子	40 名
5 月度	休 会		
6 月度 平成 25 年 6 月 24 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 京都府立医科大学 消化器内科 3) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部 4) 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門	名和 晋輔 吉田 直久 斎藤 彰一 野田 哲裕	36 名
7 月度 平成 25 年 7 月 22 日	1) 協立総合病院 内科 2) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部	高木 篤 斎藤 彰一	32 名
8 月度	休 会		
9 月度 平成 25 年 9 月 30 日	1) 佐久総合病院 胃腸科 2) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸大腸肛門科 3) 協立総合病院 消化器内科 4) 石川県立中央病院	篠原 知明 根本 大樹 名和 晋輔 山田 真也	39 名
10 月度	休 会		
11 月度 平成 25 年 11 月 25 日	1) 久留米大学医学部附属病院 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部	前山 泰彦 名和 晋輔 斎藤 彰一	34 名
12 月度 平成 25 年 12 月 16 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部	名和 晋輔 斎藤 彰一	26 名
1 月度 平成 26 年 1 月 27 日	1) 佐久総合病院 胃腸科 2) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸大腸肛門科 3) 協立総合病院 消化器内科 4) 久留米大学医学部附属病院 消化器内科 5) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部	篠原 知明 根本 大樹 名和 晋輔 長田修一郎 斎藤 彰一	32 名
2 月度 平成 26 年 2 月 24 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 東京慈恵会医科大学附属病院 内視鏡部 3) 久留米大学医学部附属病院 消化器内科	名和 晋輔 斎藤 彰一 野田 哲裕	28 名
3 月度 平成 26 年 3 月 24 日	1) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸大腸肛門科 2) 村上記念病院 消化器内科 3) 久留米大学医学部附属病院 消化器内科 4) 協立総合病院 消化器内科	根本 大樹 森本 泰隆 前山 泰彦 名和 晋輔	36 名

会場：東京商工会議所 地下 2 階講堂

IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

1 論文・著書

<原著>

- 1) Nobuhiro Sakaki Kiyoshi Ashida Yuji Mizokami et al
「Endoscopic evaluation of low-dose aspirin-induced gastric and duodenal ulcers during prophylaxis With lansoprazole」
Hepato-Gastroenterology 2013 Vol.60 762-767
平成 25 年 6 月

<総説・その他>

- 1) 榊 信廣
「胃炎に対する適応拡大の意義と目的」
日本ヘリコバクター学会誌 supplement 8-12
平成 25 年 4 月
- 2) 榊 信廣
「保険適用拡大に伴う問題点と留意点」
日本医事新報 第 4647 号 31-35 日本医事新報社
平成 25 年 5 月
- 3) 榊 信廣
「専門医に聞く H.pylori 除菌診療のポイント」
Helicobacter Research vol.17 No.3 89-93 2013 先端医学社
平成 25 年 6 月
- 4) 榊 信廣 長浜隆司 中島寛隆 尾割道代 吉田 操
「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎とは？」
Helicobacter Research vol.17 No.3 26-34 2013 先端医学社
平成 25 年 6 月
- 5) 尾割道代 中島寛隆 長浜隆司
「症例クイズ」
消化器検診 Newsletter No.95 6-8 日本消化器がん検診学会関東甲信越
支部機関誌
平成 25 年 7 月
- 6) 榊 信廣
「ピロリ菌と胃癌検診(上)ーピロリ除菌治療で胃癌を予防ー」
ALPHA CLUB 第 374 号 2-3
平成 25 年 8 月

- 7) 榊 信廣
「ピロリ菌と胃癌検診(下)—ピロリ除菌治療で胃癌を予防—」
ALPHA CLUB 第375号 2-3
平成25年9月
- 8) 榊 信廣
「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の診断と治療の保険適用」
Helicobacter Research Vol.17 No.6 521-526 2013 先端医学社
平成25年12月
- 9) 榊 信廣
「慢性胃炎研究の歴史—ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎を理解するために—」
消化器内視鏡 第25巻第12号 1921-1930 東京医学社
平成25年12月
- 10) 榊 信廣
「内視鏡検査は専門医が行うべきか？」
THE GI FOREFRONT Vol.9 No.2 24-27 メディカルレビュー
平成26年1月
- 11) 榊 信廣
「胃炎症性疾患：胃炎・胃潰瘍・胃びらんの分類」
消化器内視鏡 第26巻第1号 38-43 東京医学社
平成26年1月
- 12) 榊 信廣
「消化性潰瘍診療ガイドライン（2009）」
今日の治療指針2014 1810-1814 医学書院
平成26年1月
- 13) 吉田 操
「わたしの研究歴」
G.I.Research Vol.22 No.1 106-108 先端医学社
平成26年2月

<著書>

- 1) 榊 信廣
「AIDSの消化管病変」
内科学書 改訂第8版 Vol.4 消化管・腹膜疾患 肝・胆道・膵疾患 208-209
中山書店
平成25年10月

- 2) 中島寛隆 大倉康男
「内視鏡切除標本の取り扱い方」
日本臨牀 増刊号「最新胃癌学」 307-309 日本臨牀社
平成 26 年 1 月

2 学会活動

- 1) 工藤 泰
「胃 X 線検査の基礎」
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線部会
第 23 回 レベルアップセミナー 講演 東京
平成 25 年 5 月 11 日
- 2) 榊 信廣
「わが国から胃癌死を撲滅するまでのカウントダウン—The Finals」
第 85 回日本消化器内視鏡学会総会 特別講演 2 司会 京都
平成 25 年 5 月 11 日
- 3) 榊 信廣
「ヘリコバクター・ピロリ感染の現状と問題点」
第 10 回日韓ヘリコバクターシンポジウム シンポジウム 2 討論者 韓国
平成 25 年 6 月 1 日
- 4) H. Nakashima R. Nagahama M. Owari N. Sakaki M. Yoshida
Y. Ohkura
「Relationships Between Intestinal Metaplasia of Background Mucosa,
Clinicopathological Findings and Endoscopic Images of Early Gastric Cancer」
10th International Gastric Cancer Congress 一般 イタリア
平成 25 年 6 月 21 日
- 5) 榊 信廣
「検診」
第 19 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ポスター16 司会 長崎
平成 25 年 6 月 28 日
- 6) 榊 信廣
「H.pylori 除菌と経鼻内視鏡」
第 19 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ランチョンセミナー4 司会 長崎
平成 25 年 6 月 29 日
- 7) Hirotaka Nakashima
「Diagnosis method of Gastric Cancer by Gastrography」
6th International Double-balloon Enteroscopy and Endoscopic Submucosal
Dissection course
講演 コロンビア
平成 25 年 6 月 30 日

- 8) Hirotaka Nakashima
「Gastric Cancer Screening by Gastrography in JAPAN」
6th International Double-balloon Enteroscopy and Endoscopic Submucosal
Dissection course
講演 コロンビア
平成 25 年 6 月 30 日
- 9) Hirotaka Nakashima
「Gastric Cancer Screening program for Colombia」
6th International Double-balloon Enteroscopy and Endoscopic Submucosal
Dissection course
講演 コロンビア
平成 25 年 6 月 30 日
- 10) 長浜隆司
「上部消化管がんの早期診断のコツ」
日本消化器がん検診学会第 43 回北海道地方会 特別講演 北海道
平成 25 年 7 月 13 日
- 11) 山本美穂
「ザ・ベストイメージングコンテスト」
第 73 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会
第 15 回超音波部会学術集会 コンテスト 司会 神奈川
平成 25 年 8 月 31 日
- 12) 榊 信廣
「拡大・超拡大内視鏡による消化管疾患の診断」
第 21 回 JDDW 第 86 回日本消化器内視鏡学会総会 ワークショップ
特別発言 東京
平成 25 年 10 月 11 日
- 13) 工藤 泰
「胃 X 線検査の基礎」
埼玉県放射線技師会主催 基礎技術講習 消化管撮影 講演 埼玉
平成 25 年 12 月 11 日
- 14) 中島寛隆
「胃炎診断 up date」
第 97 回日本消化器内視鏡学会関東地方会 サテライトセミナー 講師 東京
平成 25 年 12 月 14 日

- 15) 長浜隆司
「胃癌症例検討会」
日本消化器がん検診学会平成 25 年度東北支部放射線委員会研修会 症例検討会
コメンテーター 福島
平成 26 年 2 月 8 日
- 16) 工藤 泰
「胃がん病理の基礎」
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線部会 学術集会 教育講演
司会 東京
平成 26 年 2 月 15 日
- 17) 山本美穂
「初心者のための腹部超音波実技講習会」
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会超音波部会 実技指導講師 東京
平成 26 年 2 月 15 日
- 18) 工藤 泰
「胃がん X 線検診のピットホール」
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部放射線部会 造影研修会 講演 東京
平成 26 年 2 月 15 日
- 19) 中島寛隆 長浜隆司 榊 信廣
「胃がん検診における X 線法の意義」
第 86 回日本胃癌学会総会 シンポジウム 神奈川
平成 26 年 3 月 21 日

3 研究会・研修会における講演

- 1) 吉田 操
「食道表在癌と鑑別を要する良性疾患」
第 263 回青森市消化器病集談会 特別講演 青森
平成 25 年 6 月 21 日
- 2) 榊 信廣
「SAFE Knife を用いた胃 ESD と小腸 ESD トンネル法のコツ」
第 13 回 EMR/ESD 研究会 ミニレクチャー1 司会 東京
平成 25 年 7 月 14 日
- 3) 榊 信廣
「内視鏡検査は専門医が行うべきか？」
第 18 回 JAPANGAST Study Group 講演 北海道
平成 25 年 7 月 20 日
- 4) 中島寛隆
「実地で役立つ胃がんの知識」
小石川医師会 消化器病研修会 講演 東京
平成 25 年 7 月 29 日
- 5) 榊 信廣
「ピロリ菌除菌保険適用拡大に伴う問題点と留意点」
第 4 回同泉会消化管 OB 会講演会
平成 25 年 8 月 3 日
- 6) 長浜隆司
「X 線・内視鏡による食道癌・胃癌・大腸癌の早期診断」
若手城東消化器画像勉強会 講演 東京
平成 25 年 9 月 26 日
- 7) 山本美穂
「胆・膵超音波スクリーニング・・・体位変換の重要性・・・（実践講座）」
松戸医師会 第 293 回消化器病研修会 千葉
平成 25 年 10 月 18 日
- 8) 榊 信廣
「ピロリ除菌時代の慢性胃炎の診断と治療」
品川ヘリコバクター・ピロリ研修会 講演 東京
平成 25 年 10 月 22 日

- 9) 榊 信廣
「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の診断と治療」
第 14 回東京 Helicobacter カンファレンス 教育講演 東京
平成 25 年 10 月 26 日
- 10) 長浜隆司
「ESD 時代の胃癌診断—存在診断、深達度診断を中心に—」
第 35 回奈良県胃腸研究会 特別講演 奈良
平成 25 年 11 月 2 日
- 11) 山本美穂
「超音波検査技術講習会」
全国労働衛生団体連合会 実技指導講師 東京
平成 25 年 11 月 23・24 日
- 12) 榊 信廣
「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の除菌治療の意義と問題点」
渋谷区医師会学術講演会 特別講演 東京
平成 25 年 12 月 17 日
- 13) 山崎琢士
「ピロリ除菌時代に遭遇する様々な内視鏡画像（鑑別診断も含めて）」
第 236 回消化器病研修会 講演 千葉
平成 26 年 1 月 17 日
- 14) 榊 信廣
「ピロリ除菌時代の胃炎の診断と治療」
ラベキュア・ラベファイン発売記念講演会 特別講演 東京
平成 26 年 1 月 21 日
- 15) 榊 信廣
「MRI を用いた消化管機能障害評価の試み」
第 14 回東京消化管運動研究会 教育講演 座長 東京
平成 26 年 2 月 6 日
- 16) 榊 信廣
「H. Pylori 感染—萎縮性胃炎と胃癌—」
JICA 第 9 回上級早期胃癌診断コース 講師 東京
平成 26 年 2 月 10 日

- 17) 中島寛隆 伴 慎一
「早期胃癌の症例検討会（X線診断を中心に）」
JICA 第9回上級早期胃癌診断コース 講師 東京
平成26年2月13日
- 18) 榊 信廣
「ピロリ除菌時代の胃炎の診断と治療」
第7回港区消化器学術講演会 特別講演 東京
平成26年2月18日
- 19) 榊 信廣
「ピロリ除菌時代の胃炎の診断と治療」
平成25年度文京区医師会胃がん検診研修会 講演 東京
平成26年2月25日
- 20) 榊 信廣
「ピロリ除菌治療と胃がん予防」
港区医師会内科医会学術講演会 講演 東京
平成26年3月26日

4 共同研究

<原著>

- 1) Asaoka D Nagahara A Matsuhisa T Sakaki N et al
「Trends of Second-Line Eradication Therapy for Helicobacter pylori in Japan : A Multicenter Study in the Tokyo Metropolitan Area」
Helicobacter Vol.18 No.6 468-472 2013
平成 25 年 12 月

<学会活動>

- 1) 永原章仁 松久威史 伊藤慎芳 榊 信廣 他
「ESD 治療可能な除菌後胃癌診断のための適正な内視鏡検査間隔の検討—東京 Hp 研究会での多施設共同調査—」
第 19 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ポスター 長崎
平成 25 年 6 月 28 日
- 2) 佐々木仁 永原章仁 浅岡大介 榊 信廣 他
「東京都内多施設共同調査における Helicobacter pylori 一次・二次除菌率」
第 19 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ポスター 長崎
平成 25 年 6 月 28 日
- 3) 徳永健吾 伊藤慎芳 浅岡大介 榊 信廣 他
「シタフロキサシンを用いた H. pylori 三次除菌療法—東京多施設検討—」
第 19 回日本ヘリコバクター学会学術集会 シンポジウム 3 長崎
平成 25 年 6 月 28 日

B 研修事業

I 実技研修の受入れ

協会における実技研修を希望する医師、放射線技師を受け入れて指導した。

主たる研修内容は、消化管の X 線検査、内視鏡検査、超音波検査であり、医師 3 人を受け入れた。

国内医師

所属施設	受入 人数	研修期間			
		～3ヶ月	～6ヶ月	～12ヶ月	～18ヶ月
鈴木胃腸消化器クリニック	1		1		
都立駒込病院	1		1		
千葉徳洲会病院	1		1		
計	3		3		

<参考資料>

所属施設	氏名	研修期間	
鈴木胃腸消化器 クリニック	A	平成 25 年 4 月 4 日～平成 25 年 10 月 3 日	6ヶ月（毎週木曜日）
都立駒込病院	B	平成 25 年 7 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日	6ヶ月（毎日）
千葉徳洲会病院	C	平成 25 年 7 月 18 日～平成 26 年 1 月 9 日	6ヶ月（毎週木曜日）

II 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるということで多くの参加があり、有意義な会となった。

『平成 25 年度第 1 回』

開催日：平成 25 年 6 月 26 日（金）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：東京医科歯科大学 食道・一般外科助教 川田研郎

演題：「経鼻内視鏡による口腔咽喉頭食道トータルケア」

『平成 25 年度第 2 回』

開催日：平成 25 年 10 月 24 日（火）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：がん・感染症センター都立駒込病院 大腸外科医長 松本寛

演題：「大腸がんの腹腔鏡手術」

『平成 25 年度第 3 回』

開 催 日：平成 26 年 2 月 13 日（金）

場 所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講 演 者：広島大学病院 内視鏡診療科教授 田中信治

演 題：「早期大腸がんの内視鏡診断と治療」

Ⅲ 外国人医師に対する研修

1 外国人医師のための「第 9 回上級早期胃癌診断コース」の実施

独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、平成 26 年 1 月 31 日から 3 月 10 日までの期間、中南米地域 2 ヶ国 6 人に対し、研修を実施した。

<研修概要>

本研修は、平成 17 年度から新たに「上級早期胃癌診断コース～早期消化器癌の診断と治療～」として再スタートし、平成 25 年度は第 9 回目となる。このコースでは、食道・胃・大腸がんの早期診断について研修し、診断法、治療、病理所見、チーム医療に関する種々多彩な講義、症例検討会並びに 3 週間の病院実習を行った。

平成 25 年度も、カリキュラム委員会において集中講義の内容等を見直し、平成 20 年度から作成した集中講義のテキストを昨年度同様、電子版として作成した。

また、各臓器別に症例検討会を設け、質・量ともに充実を期し、研修効果を高めた。

集中講義：2 月 3 日～2 月 14 日

於：新宿パークタワー v 30 階 リージャス新宿パークタワー「桜」

病院実習：2 月 17 日～3 月 8 日

国立がん研究センター中央病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、がん・感染症センター都立駒込病院の 4 施設に依頼し、診断、検査と治療の要点の解説を中心とした指導を行った。

集中講義講師（五十音順）

味岡 洋一	新潟大学大学院医歯学総合研究科分子・診断病理学教授
有馬美和子	埼玉県立がんセンター消化器内科副部長
板橋 道朗	東京女子医科大学第二外科学准教授
今井 裕	東海大学医学部専門診療学系画像診断学教授
入口 陽介	東京都がん検診センター消化器内科部長
上堂 文也	大阪府立成人病センター消化管内科副部長
宇田川晴司	虎の門病院消化器外科部長
大杉 治司	大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科学教授
大森 泰	慶應義塾大学医学部内視鏡センター副センター長

小野 裕之	静岡県立静岡がんセンター副院長兼内視鏡科部長
小山 恒男	長野厚生連佐久総合病院胃腸科部長
九嶋 亮治	国立がん研究センター中央病院病理・臨床検査科副科長
斎藤 博	国立がん研究センターがん予防・検診研究センター検診研究部部長
榑 信廣	早期胃癌検診協会理事兼研究本部長
下田 忠和	国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援研究部
田久保海誉	東京都健康長寿医療センター研究所老年病理学研究チーム研究部長
竹内 学	新潟大学医歯学総合病院消化器内科助教
立石 陽子	横浜市立大学大学院医学研究科病態病理学助教
田中 信治	広島大学病院内視鏡診療科教授
円谷 彰	湘南鎌倉総合病院臨床試験推進室室長
鶴田 修	久留米大学医学部消化器病センター教授
中島 寛隆	早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック診療科科長
伴 慎一	済生会川口総合病院病理診断科主任部長
深川 剛生	国立がん研究センター中央病院胃外科外来医長
細川 治	横浜栄共済病院院長
朴 成和	聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学講座主任教授
松井 敏幸	福岡大学筑紫病院消化器内科教授
松本 主之	岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科消化管分野教授
丸山 道生	東京都保健医療公社大久保病院外科部長
村田 洋子	ムラタクリニック院長
門馬久美子	がん・感染症センター都立駒込病院内視鏡科部長
八尾 建史	福岡大学筑紫病院内視鏡部診療教授
八尾 隆史	順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学教授
安野 正道	東京都立広尾病院外科部長
山本 博徳	自治医科大学消化器センター教授
吉永 繁高	国立がん研究センター中央病院内視鏡科消化管内視鏡医員
渡辺 英伸	新潟大学医学部名誉教授
和田 祥城	東京医科歯科大学医学部附属病院光学医療診療部助教

病院実習指導医（五十音順）

河野 辰幸	東京医科歯科大学食道胃外科教授
九嶋 亮治	国立がん研究センター中央病院病理・臨床検査科副科長
中村 真一	東京女子医科大学病院消化器病センター消化器内科教授
比島 恒和	がん・感染症センター都立駒込病院病理部長
門馬久美子	がん・感染症センター都立駒込病院内視鏡科部長
吉永 繁高	国立がん研究センター中央病院内視鏡科消化管内視鏡医員

< 講義日程・内容 >

日時	9:30~10:30	10:45~11:45	13:15~14:15	14:30~15:30
2月3日(月)	円谷 彰 胃癌の総論	田久保海誓 食道癌の病理	入口陽介 上部消化管早期癌のX線診断	竹内 学 食道早期癌に対するEMR・ESD
2月4日(火)	大森 泰 中下咽頭表在癌の内視鏡診断と治療	門馬久美子 食道癌の内視鏡診断	13:00~14:00 有馬美和子 食道表在癌のStaging	14:15~16:30 大森・門馬・有馬・立石 食道癌の症例検討-A
2月5日(水)	八尾隆史 胃癌の病理	鶴田 修 大腸早期癌の内視鏡診断と治療	上堂文也 上部消化管の色素内視鏡検査法	村田洋子 超音波内視鏡診断による胃癌のStaging
2月6日(木)	深川剛生 胃癌の外科治療	小野裕之 早期胃癌のESD	八尾達史 早期胃癌の内視鏡診断	斎藤 博 大腸癌のスクリーニング
2月7日(金)	大杉治司 食道癌の外科治療	10:45~12:15 下田忠和・朴 成和 消化管の神経内分泌腫瘍	渡辺英伸 早期胃癌の画像診断向上のために —臨床画像から組織像をよむ—	山本博徳 小腸内視鏡の診断と治療
2月10日(月)	小山恒男・下田忠和 食道癌の症例検討-B		小山恒男 食道胃接合部領域癌の早期診断と治療	神 信廣 H.Pylori 感染—萎縮性胃炎と胃癌—
2月11日(祝/火)	細川 治 胃癌検診:日本における方法と成果	松井敏幸 IBDならびにColitic Cancerの診断	宇田川晴司 食道癌の総論	松本主之 胃癌と鑑別を要する疾患の内視鏡診断
2月12日(水)	板橋道朗 大腸癌の総論	九嶋亮治 消化管癌病理組織診断学総論	九嶋亮治・吉永繁高 早期胃癌の症例検討(内視鏡診断を中心に)	
2月13日(木)	Workshop Health and Medical Care System in Japan	今井 裕 大腸癌の画像診断	13:00~14:00 田中信治 早期大腸癌の鑑別診断と内視鏡治療	14:15~16:15 中島寛隆・伴 慎一 早期胃癌の症例検討 (X線診断を中心に)
2月14日(金)	丸山道生 がん診療におけるチーム医療 NST	味岡洋一 大腸癌の形態発生	安野正道 大腸癌の外科治療	14:30~16:30 和田祥城 早期大腸癌の症例検討

平成 25 年度

上級早期胃癌診断コース（地域別研修：中南米・アジア地域）

研修員リスト

1	<p>Dr. Carlos Alberto Quintero カルロス・アルベルト・ルエタ・キンテロ 消化器内科 CHILE チリ</p>	4	<p>Dra. Yeri Suyapa Jimenez Santos イェリ・スヤパ・ジメネス・サントス 病理科 HONDURAS ホンジュラス</p>
2	<p>Dr. Sergio Antonio Baez Vallejos セルジオ・アントニオ・バエス・ヴァジェホス 外科 CHILE チリ</p>	5	<p>Dra. Karla Xiomara Flores Garsia カーラ・シオマラ・フローレス・ガルシア 内視鏡科 HONDURAS ホンジュラス</p>
3	<p>Dr. Rodney Srock Lillo ロドニー・ストック・リロ 内視鏡科 CHILE チリ</p>	6	<p>Dra. Claudia Yadira Contreras Diaz クラウディア・ジヤデira・コントレラス・ディアス 病理科 HONDURAS ホンジュラス</p>

C クリニック運営事業

(1) 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 12,872 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 6,951 人であった。

(2) 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く）

診療科目：内科、消化器科、放射線科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：10,739 人

(3) 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：火曜日及び木曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

(4) その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

1 平成 25 年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検 診	法 定 検 診	婦 人 科 検 診	計
4 月	184	235	141	2	562
5 月	300	462	281	0	1,043
6 月	486	467	329	20	1,302
7 月	698	528	205	0	1,431
8 月	678	325	243	12	1,258
9 月	504	356	318	5	1,183
10 月	690	431	332	6	1,459
11 月	650	391	220	4	1,265
12 月	551	273	140	5	969
1 月	358	165	304	3	830
2 月	409	231	184	0	824
3 月	389	146	211	0	746
計	5,897	4,010	2,908	57	12,872

* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。

2 平成 25 年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃検診	計
4 月	1,493	128	1,621
5 月	407	132	539
6 月	882	195	1,077
7 月	784	175	959
8 月	651	183	834
9 月	390	205	595
10 月	247	191	438
11 月	0	135	135
12 月	0	74	74
1 月	0	214	214
2 月	0	245	245
3 月	0	220	220
計	4,854	2,097	6,951

3 平成 25 年度 外来受診者数

(単位：件)

	平成 25 年度	平成 24 年度	差 引
4 月	782	698	84
5 月	795	854	△59
6 月	863	869	△ 6
7 月	1,004	901	103
8 月	926	885	41
9 月	887	736	151
10 月	1,005	950	55
11 月	977	895	82
12 月	955	937	18
1 月	857	783	74
2 月	822	778	44
3 月	866	829	37
計	10,739	10,115	624

4 平成 25 年度 上部消化管 X 線検査

① 目的別検査件数

(単位：件)

項目		計	性別		受診歴	
			男性	女性	初回	逐年
検診	任意型	7,887	6,229	1,658	3,885	4,002
			(79.0%)	(21.0%)	(49.3%)	(50.7%)
	対策型	4,857	3,817	1,040	3,615	1,242
			(78.6%)	(21.4%)	(74.4%)	(25.6%)
一般診療		24	15	9	12	12
			(62.5%)	(37.5%)	(50.0%)	(50.0%)
計		12,768	10,061	2,707	7,512	5,256

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	129	1,529	3,165	2,014	956	88	6	7,887
対策型検診	47	947	2,162	1,246	447	8	0	4,857
計	176	2,476	5,327	3,260	1,403	96	6	12,744

③ 要精検率と生検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体			初回検診群			逐年検診群		
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数
任意型	471 (5.97%)	104 (22.10%)	7,887	237 (5.92%)	65 (27.42%)	4,002	234 (6.02%)	39 (16.67%)	3,885
対策型	257 (5.29%)	128 (49.81%)	4,857	63 (5.07%)	34 (53.97%)	1,242	194 (5.37%)	94 (48.45%)	3,615
計	728 (5.71%)	232 (31.87%)	12,744	300 (5.72%)	99 (33.00%)	5,244	428 (5.71%)	133 (31.07%)	7,500

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数 / 受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数 / 要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

(単位：件)

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	176	570	1,906	2,826	2,501	1,855	1,405	1,113	290	76	20	6	12,744
要精検者数	0	15	37	105	108	131	127	143	42	11	6	3	728	
精検受診者数	0	8	13	37	37	46	34	41	9	4	2	1	232	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	胃ポリープ	0	0	1	3	2	4	3	8	1	0	1	23	
	胃潰瘍（瘢痕を含）	0	0	1	4	5	3	8	8	4	0	0	33	
	その他の良性疾患	0	6	14	21	21	30	21	21	4	3	1	1	143
	異常なし	0	2	5	7	9	5	1	2	0	1	0	0	32
	不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
	食道癌	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

(単位：件)

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	111	245	637	810	756	552	404	375	82	22	5	3	4,002
要精検者数	0	7	11	31	38	51	40	43	9	5	1	1	237	
精検受診者数	0	2	6	7	9	13	11	11	1	3	1	1	65	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	胃ポリープ	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	1	6	
	胃潰瘍（瘢痕を含）	0	0	0	0	1	1	3	3	1	0	0	9	
	その他の良性疾患	0	2	2	3	4	10	6	5	0	2	0	1	35
	異常なし	0	0	4	3	3	0	0	1	0	1	0	0	12
	不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

(単位：件)

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	18	85	562	862	737	595	463	379	120	46	15	3	3,885
要精検者数	0	0	13	33	31	31	41	53	20	5	5	2	234	
精検受診者数	0	0	1	4	5	5	7	11	4	1	1	0	39	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
	胃潰瘍（瘢痕を含）	0	0	0	1	1	0	2	1	2	0	0	7	
	その他の良性疾患	0	0	9	3	3	4	5	6	1	1	1	0	33
	異常なし	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	11	134	244	269	210	162	107	69	32	4	0	0	1,242
要精検者数	0	7	3	9	9	8	11	11	4	1	0	0	63	
精検受診者数	0	6	1	3	6	6	5	5	2	0	0	0	34	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3	
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
	その他の良性疾患 ⁹	0	4	0	2	5	5	3	2	2	0	0	0	23
	異常なし	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	36	106	463	885	798	546	431	290	56	4	0	0	3,615
要精検者数	0	1	10	32	30	41	35	36	9	0	0	0	194	
精検受診者数	0	0	5	23	17	22	11	14	2	0	0	0	94	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃ポリープ	0	0	1	2	0	3	1	2	0	0	0	9	
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	1	3	3	2	1	4	1	0	0	15	
	その他の良性疾患	0	0	3	13	9	11	7	8	1	0	0	0	52
	異常なし	0	0	0	3	5	5	1	0	0	0	0	0	14
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	食道癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

5 平成 25 年度 X 線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検診形態		検査件数
胸 部	外来	33	15,410
	契約検診	12,016	
	集団検診（施設）	1,135	
	集団検診（車）	2,226	
上部消化管	外来	24	12,768
	契約検診	7,887	
	集団検診（施設）	1,470	
	集団検診（車）	3,387	
下部消化管			15
胸部 CT			946
腹部 CT			52
頭部 CT			22
マンモグラフィ			1,160
骨密度			576
計			30,949

6 平成 25 年度 内視鏡検査数

(単位：件)

検査数	
上部消化管	5,334
経鼻内視鏡の内訳	< 385 >
下部消化管	1,821
計	7,155
生検数	
上部消化管	603
下部消化管	122
計	725
下部消化管治療数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	156

(単位：件)

鎮静剤使用による検査数	
上部消化管	2,001
下部消化管	474
計	2,475

生検数

内視鏡下で組織片を得るために用いる総件数である。病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

7 平成 25 年度 病理検査数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		
		上部	下部	上部	下部	
組織検査	生検	601	122	—	—	723
	内視鏡切除	1	164	3	—	168
	外科切除	1	1	7	—	9
計		890		10		900

細胞検査	婦人科材料	1,811
	喀痰・その他	144
計		1,955

8 平成 25 年度 がん患者数

(単位：件)

	食道がん		胃がん		大腸がん	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～29歳						
30～34歳						
35～39歳			1			1
40～44歳					1	
45～49歳			4	1	2	
50～54歳			3		4	
55～59歳	4		5		6	
60～64歳	1		3	2	4	1
65～69歳	1		4		2	
70～74歳	1			1	1	1
75～79歳	1		2			2
80歳～	1					
小計	9	0	22	4	20	5
	9		26		25	

9 平成 25 年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	1
Ut	2
Mt	4
Lt	2
Ae	
EG	
	9

10 平成 25 年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	
U	2	1	4	3	10
M	1	3	1	1	6
L	3	4	2	1	10
	6	8	7	5	26

11 平成 25 年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0					1	2	3	5	
	Ip	Isp	Is	IIa	IIc					
C						1			1	2
A	1					1	1			3
T							1			1
D										0
S	6	4	1	1						12
RS	1	1				1				3
R		1				1	2			4
	8	6	1	1	0	4	4		1	25

12 平成 25 年度 腹部超音波検査数

(単位：件)

		契約検診		外来		計
		6,556		908		
		男性	女性	男性	女性	7,464
		5,078	1,478	666	242	
有所見 内訳	脂肪肝	2,050	228	263	33	2,574
	肝嚢胞	1,303	354	191	88	1,936
	肝血管腫（疑い）	476	151	69	28	724
	肝腫瘍（疑い）	10	4	4	2	20
	慢性肝疾患	14	1	20	4	39
	肝硬変	3	0	8	5	16
	門脈瘤	2	0	1	1	4
	胆嚢ポリープ	1,433	278	179	48	1,938
	胆石	275	51	45	22	393
	胆嚢腺筋腫症	106	27	27	11	171
	胆管結石	1	0	0	0	1
	慢性胆嚢炎	6	0	1	1	8
	膵嚢胞	55	9	15	10	89
	膵石	6	1	3	1	11
	膵腫瘍（疑い）	4	4	12	6	26
	腎嚢胞	1,228	167	189	63	1,647
	腎結石・尿管結石	165	28	14	2	209
	水腎症	39	13	8	9	69
	腎血管筋脂肪腫	30	21	5	7	63
	腎腫瘍（疑い）	9	4	2	1	16
馬蹄腎	13	2	2	0	17	
脾嚢胞	4	1	1	1	7	
脾腫瘍（疑い）	2	1	0	0	3	
副腎腫瘍	6	4	2	0	12	

13 平成 25 年度 乳腺超音波検査件数と有所見者数

乳腺超音波件数	1,203件
---------	--------

有所見 内訳

(単位：件)

内訳	契約検診	外来	計
乳腺症	12	0	12
乳腺腫瘍（疑い）	43	2	45
乳腺嚢胞	624	27	651
嚢胞内腫瘍（疑い）	2	0	2
乳管内腫瘍（疑い）	1	0	1
非浸潤癌（疑い）	200	10	210
浸潤癌（疑い）	2	0	2
線維腺腫（疑い）	22	2	24
乳房脂肪腫	12	0	12
乳管拡張症	43	2	45

14 平成 25 年度 臨床検査の受診者数と件数

(単位：件)

	人 数	件 数
生化学	15,999	227,135
検尿	13,923	79,850
検便	10,741	20,024
血液	15,988	110,381
血清学	5,194	29,781
ウイルス (HIV)	4	4
細菌	8	31
合 計		467,206

15 平成 25 年度 臨床検査別件数

(単位：件)

		件 数
生化学	蛋 白	18,919
	糖	15,640
	脂 質	61,734
	酵 素	74,445
	その他	56,397
	計	227,135
検 尿		79,850
検 便	検 便	17,861
	検便 (虫卵)	2,163
	計	20,024
血 液	血液形態学	100,194
	血液凝固	512
	その他	9,675
	計	110,381
血清学検査		29,781
ウイルス (HIV)		4
細 菌		31
合 計		467,206

D 啓発事業

研究成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

I 保健指導者セミナー

開催日：平成 25 年 11 月 14 日（木）

場所：鉄鋼会館 会議室

講師：公益財団法人早期胃癌検診協会理事兼研究本部長 榊 信廣

テーマ：「ヘリコバクター・ピロリ診療の最前線」

* セミナーの内容をまとめた冊子を作成しているところであり、今後、無料配布する予定である。

II ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。平成 25 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

第 14 号 「甲状腺の病気について」

第 15 号 「骨粗鬆症について」

第 16 号 「脂質異常症について」

E 法人運営

I 評議員会・理事会の開催

第5回 理事会

日 時 平成25年5月31日(木) 16時から
場 所 東京証券会館 9階 第3会議室
出席数 理事8名、監事1名
決議事項 ① 平成24年度事業報告書・計算書類等の件
② 麻薬管理規程制定の件
③ 第2回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
報告事項 平成24年度資金運用実績報告

第2回 評議員会

日 時 平成25年6月19日(月) 18時から
場 所 鉄鋼会館8階 803号室
出席数 評議員9名、理事3名、監事1名
決議事項 ① 平成24年度事業報告書・計算書類等の件
② 理事選任の件

第6回 理事会

日 時 平成25年11月25日(月) 16時から
場 所 東京証券会館9階 第9会議室
出席数 理事12名、監事1名
決議事項 ① 契約職員の就業に関する規程の一部改正の件
② 再任用職員の就業に関する規程の一部改正の件
報告事項 業務執行状況報告

第7回 理事会

日 時 平成26年3月24日(月) 16時から
場 所 東京証券会館9階 第9会議室
出席数 理事11名、監事1名
決議事項 ① 平成26年度事業計画書・収支予算書の件
② 育児・介護休業等に関する規程の全部改正の件
③ 賃金規程の一部改正の件
④ 平成26年度資金運用の方針及び運用計画の件
報告事項 業務執行状況報告

II 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ エックス線撮影装置
- ・ 内視鏡システム

III 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

IV 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に行えるようにした。また、職員に対して法令、規程及び規約等を周知し、その徹底を図った。

平成 25 年度 計算書類等

貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	139,851,443	163,715,735	△ 23,864,292
未収金	64,121,385	59,121,830	4,999,555
薬品	1,107,849	1,681,341	△ 573,492
診療材料	24,383	137,352	△ 112,969
貯蔵品	885,670	1,860,450	△ 974,780
前払費用他	10,940,013	10,824,169	115,844
流動資産合計	216,930,743	237,340,877	△ 20,410,134
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	25,372,478	8,087,340	17,285,138
定期預金	0	140,000,000	△ 140,000,000
投資有価証券	174,627,522	51,912,660	122,714,862
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	53,130,930	49,908,763	3,222,167
減価償却引当資産	83,000,000	83,000,000	0
特定資産合計	136,130,930	132,908,763	3,222,167
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	4,080,000	4,080,000	0
造作設備	35,626,608	41,617,472	△ 5,990,864
什器備品	4,406,243	9,007,783	△ 4,601,540
研究機器	134,753,216	122,464,523	12,288,693
ソフトウェア	911,295	1,027,821	△ 116,526
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
繰延消費税	331,632	552,720	△ 221,088
一括償却資産	426,800	0	426,800
その他固定資産合計	200,717,616	198,932,141	1,785,475
固定資産合計	536,848,546	531,840,904	5,007,642
資産合計	753,779,289	769,181,781	△ 15,402,492
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	11,510,858	16,111,867	△ 4,601,009
未払費用	23,764,972	24,487,831	△ 722,859
未払金	23,040,779	25,033,216	△ 1,992,437
リース債務	22,655,400	16,219,200	6,436,200
預り金	2,138,009	3,402,607	△ 1,264,598
前受金	0	250,259	△ 250,259
賞与引当金	12,137,937	12,959,910	△ 821,973
未払消費税	1,454,900	3,553,800	△ 2,098,900
流動負債合計	96,702,855	102,018,690	△ 5,315,835
2. 固定負債			
退職給付引当金	53,130,930	49,908,763	3,222,167
リース債務	87,726,150	66,502,300	21,223,850
固定負債合計	140,857,080	116,411,063	24,446,017
負債合計	237,559,935	218,429,753	19,130,182
III 正味財産の部			
一般正味財産	516,219,354	550,752,028	△ 34,532,674
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(240,000,000)	
正味財産合計	516,219,354	550,752,028	△ 34,532,674
負債及び正味財産合計	753,779,289	769,181,781	△ 15,402,492

正味財産増減計算書

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,552,255	1,042,533	509,722
基本財産受取配当金	682,977	328,000	354,977
② 受取会費			
賛助会員受取会費	6,672,000	7,152,000	△ 480,000
③ 事業収益			
診断診療事業収益	611,753,700	637,441,907	△ 25,688,207
研修受託収益	6,427,849	7,065,567	△ 637,718
④ 受取寄附金			
受取寄附金	22,615,000	41,905,000	△ 19,290,000
⑤ 雑収益			
受取利息	303,563	59,355	244,208
雑収益	1,911,855	2,530,104	△ 618,249
経常収益計	651,919,199	697,524,466	△ 45,605,267
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料手当等	272,399,306	261,151,258	11,248,048
退職給付費用	6,772,518	6,265,416	507,102
福利厚生費	30,411,526	29,073,786	1,337,740
旅費交通費	1,046,751	867,053	179,698
通信運搬費	5,566,191	5,480,143	86,048
医療材料費	38,233,499	56,968,596	△ 18,735,097
消耗品費	15,481,121	15,295,561	185,560
修繕費	19,735,753	21,331,072	△ 1,595,319
図書費	1,083,642	904,690	178,952
印刷製本費	5,693,198	4,049,475	1,643,723
光熱水料費	4,093,724	3,900,615	193,109
賃借料	83,107,160	80,134,619	2,972,541
委託費	82,788,420	91,631,533	△ 8,843,113
リース費	570,820	6,577,080	△ 6,006,260
会議費	120,845	63,566	57,279
保険料	424,260	451,270	△ 27,010
支払負担金	770,000	811,524	△ 41,524
支払手数料	1,326,866	1,329,557	△ 2,691
交際費	8,900	149,286	△ 140,386
広告費	486,660	446,800	39,860
減価償却額	50,431,045	46,529,524	3,901,521
租税公課	4,843,631	6,153,678	△ 1,310,047
雑費	1,166,922	376,239	790,683
国内医師研修事業費	0	16,280	△ 16,280
海外医師研修事業費	0	8,087,337	△ 8,087,337
啓発事業費	0	705,734	△ 705,734

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
給 料 手 当 等	43,746,223	50,357,081	△ 6,610,858
退 職 給 付 費 用	2,313,549	2,642,780	△ 329,231
福 利 厚 生 費	5,355,323	5,407,484	△ 52,161
旅 費 交 通 費	120,890	71,233	49,657
通 信 運 搬 費	7,417	58,725	△ 51,308
消 耗 品 費	0	70,000	△ 70,000
函 書 費	0	667	△ 667
印 刷 製 本 費	104,900	106,000	△ 1,100
光 熱 水 料 費	180,341	172,071	8,270
賃 借 料	1,995,000	2,036,250	△ 41,250
委 託 費	145,905	148,000	△ 2,095
会 議 費	185,508	417,339	△ 231,831
保 險 料	1,328,161	1,328,161	0
支 払 負 担 金	96,000	102,000	△ 6,000
支 払 寄 附 金	50,000	50,000	0
支 払 手 数 料	2,096	16,352	△ 14,256
交 際 費	30,000	160,000	△ 130,000
減 価 償 却 費	350,128	360,750	△ 10,622
顧 問 料	1,681,429	1,681,430	△ 1
租 税 公 課 費	1,200	8,700	△ 7,500
雑 費	9,524	400,000	△ 390,476
経常費用計	684,266,352	714,346,715	△ 30,080,363
当期経常増減額	△ 32,347,153	△ 16,822,249	△ 15,524,904
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却額			
研 究 機 器 除 却 額	19	0	19
什 器 備 品 除 却 額	2,185,502	0	2,185,502
経常外費用計	2,185,521	0	2,185,521
当期経常外増減額	△ 2,185,521	0	△ 2,185,521
当期一般正味財産増減額	△ 34,532,674	△ 16,822,249	△ 17,710,425
一般正味財産期首残高	550,752,028	567,574,277	△ 16,822,249
一般正味財産期末残高	516,219,354	550,752,028	△ 34,532,674
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	516,219,354	550,752,028	△ 34,532,674

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- 満期保有有価証券 … 取得原価法
 その他有価証券 … 期末日の市場価格等に基づく時価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- 薬品、診療材料及び貯蔵品 … 最終仕入原価法による原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

(4) 引当金の計上基準

- ① 賞与引当金 … 財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。
 ② 退職給付引当金 … 財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

(6) 消費税等の会計処理

税抜方式

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	8,087,340	238,204,228	220,919,090	25,372,478
定期預金	140,000,000	0	140,000,000	0
投資有価証券	51,912,660	122,887,836	172,974	174,627,522
小 計	200,000,000	361,092,064	361,092,064	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	49,908,763	18,108,986	14,886,819	53,130,930
減価償却引当資産	83,000,000	8,634,657	8,634,657	83,000,000
小 計	132,908,763	26,743,643	23,521,476	136,130,930
合 計	332,908,763	387,835,707	384,613,540	336,130,930

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	25,372,478	0	25,372,478	—
投資有価証券	174,627,522	0	174,627,522	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	
特定資産				
退職給付引当資産	53,130,930	—	—	53,130,930
減価償却引当資産	83,000,000	0	83,000,000	—
小 計	136,130,930	0	83,000,000	53,130,930
合 計	336,130,930	0	283,000,000	53,130,930

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	95,399,040	59,772,432	35,626,608
什 器 備 品	27,070,589	22,664,346	4,406,243
研 究 機 器	374,044,202	239,290,986	134,753,216
ソ フ ト ウ ェ ア	6,983,300	6,072,005	911,295
合 計	503,497,131	327,799,769	175,697,362

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
丸 紅 株 式 会 社 社 債	50,338,723	50,344,250	5,527
ソフトバンク株式会社社債	40,850,643	40,397,300	△ 453,343
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	31,494,303	31,389,000	△ 105,303
株式会社三井住友銀行社債	30,000,000	30,039,000	39,000
ソフトバンク株式会社社債	21,943,853	22,028,600	84,747
株式会社三井住友銀行社債	20,000,000	20,240,700	240,700
あ い ち 県 民 債	18,771,674	18,763,714	△ 7,960
な ご や か 市 債	11,979,620	11,976,290	△ 3,330
あ い ち 県 民 債	11,302,396	11,294,664	△ 7,732
合 計	236,681,212	236,473,518	△ 207,694

6 引当金の増減額及びその残高

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	12,959,910	40,633,114	41,455,087	0	12,137,937
退 職 給 付 引 当 金	49,908,763	9,086,067	5,863,900	0	53,130,930
合 計	62,868,673	49,719,181	47,318,987	0	65,268,867

財 産 目 録

平成 26 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	353,186
普通預金 三井住友銀行他	99,498,257
定期預金 三井住友信託銀行	40,000,000
計	139,851,443
未収金	
三井住友海上火災保険	9,477,225
社会保険診療報酬支払基金	9,414,139
特約法人ほか	45,230,021
計	64,121,385
薬品	1,107,849
診療材料	24,383
貯蔵品	885,670
前払費用	10,940,013
日経プラザアンドサービス 賃借料他	
流動資産合計	216,930,743
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
普通預金 三井住友銀行	25,372,478
投資有価証券 社債 丸紅	50,338,723
投資有価証券 社債 ソフトバンク	40,850,643
投資有価証券 社債 三菱UFJ信託銀行	31,494,303
投資有価証券 社債 三井住友銀行	30,000,000
投資有価証券 社債 ソフトバンク	21,943,853
計	200,000,000
(2) 特定資産	
退職給付引当資産 三井住友銀行 普通預金	29,848,914
退職給付引当資産 なごやか市民債	11,979,620
退職給付引当資産 あいち県民債	11,302,396
減価償却引当資産 三井住友銀行 普通預金	44,228,326
減価償却引当資産 あいち県民債	18,771,674
減価償却引当資産 三井住友銀行 社債	20,000,000
計	136,130,930
(3) その他固定資産	
敷金 日本経済新聞社	18,383,640
入居保証金 タカハシビル	4,080,000
造作設備	
財団ビル 2F X線室改装工事	11,600,000
" 4F ドック改装工事	6,556,568
" 3F 診察室改装工事	6,562,000
" C T室改修工事	4,210,112
" 2F X線室改装工事	2,290,363
" 3階・4階改修工事	1,653,227
" 3階内視鏡洗浄室設置工事	1,073,917
" その他内装工事	1,680,421
計	35,626,608

科 目		金 額	
什器備品	本館医局LANケーブル配線工事	1,159,167	
	本館医局電話主装置	701,695	
	4F待合ソファ	575,000	
	郵便料金計器	492,000	
	imagio MPC2800 SPF	285,000	
	エアコン設置	284,660	
	薬用冷蔵ショーケース	232,867	
	ｽﾘﾓ型薬用冷凍冷蔵庫	204,771	
	リコーフルカラー複合機	117,900	
	郵便料金計他	353,183	
	計	4,406,243	
研究機器	マルチスライスCT	51,940,000	
	X線テレビ装置（胃部） 4台	35,072,702	
	電子内視鏡及び各種内視鏡機器	21,647,480	
	超音波診断装置 4台	9,677,333	
	内臓脂肪測定装置 1台	1,891,440	
	婦人科診察台 1台	1,708,608	
	X線テレビ装置（胸部） 1台	1,527,664	
	非接触眼圧計 1台	1,298,000	
	心電計 1台	1,233,800	
	画像サーバーNAS 1台	1,030,292	
	医用テレメーター式 1台	1,027,786	
	包埋装置 1台	761,904	
	送信機 3台	580,694	
	自動身長計付体重計 1台	570,000	
	ベッドサイドモニタ 1台	564,203	
	炭酸ガス送気装置 2台	471,750	
	全自動血球計数器 1台	448,500	
	テーブルトップ遠心機 1台	322,917	
	オーディオメータ 1台	234,774	
	その他	2,743,369	
計	134,753,216		
ソフトウェア	911,295		
電話加入権	1,798,182		
繰延消費税	331,632		
一括償却資産	426,800		
その他固定資産合計	200,717,616		
固定資産合計		536,848,546	
資産合計		753,779,289	

科 目		金 額	
II	負債の部		
1.	流動負債		
	買掛金		
	メディセオ	4,496,791	
	富士フィルムメディカル	4,394,100	
	東邦薬品	1,175,183	
	リンパステディカルインス販売	783,236	
	アルフレッサ	302,970	
	サトウ商会	186,973	
	サンメディックス	136,080	
	メディエントランス	35,525	
	計	11,510,858	
	未払費用		
	締後給料	21,368,447	
	社会保険料	2,210,315	
	後納郵便代他	186,210	
	計	23,764,972	
	未払金		
	エスアールエル	4,924,356	
	東芝医用ファイナンス	2,343,600	
	東芝メディカルシステムズ	2,294,775	
	エイコー	1,801,800	
	エーゼット	1,091,475	
	サン・ウオッシング	879,028	
	アデコ	636,903	
	東京都保健医療公社荏原病院	400,050	
	千代田土地建物	395,682	
	大塚商会	371,580	
	エスエスエー	276,150	
	リース残債務に関わる消費税等	5,684,105	
	その他	1,941,275	
	計	23,040,779	
	リース債務		
	東芝医用ファイナンス	18,477,600	
	興銀リース	2,878,200	
	日本ビジネスリース	760,800	
	リコーリース	538,800	
	計	22,655,400	
	預り金		
	源泉所得税	1,347,309	
	住民税	790,700	
	計	2,138,009	
	賞与引当金	12,137,937	
	未払消費税	1,454,900	
	流動負債合計		96,702,855
2.	固定負債		
	退職給付引当金	53,130,930	
	リース債務		
	東芝医用ファイナンス	72,985,000	
	興銀リース	12,712,050	
	日本ビジネスリース	1,834,400	
	リコーリース	194,700	
	計	87,726,150	
	固定負債合計		140,857,080
	負債合計		237,559,935
	正味財産		516,219,354

平成 26 年 6 月 17 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町 2 丁目 6 番 12 号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail mail@soiken.or.jp